

当報告の内容は著者の著作物です。

情報資源利用研究センター主催・基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成」共催：国際ワークショップ

平成 23 年 2 月 23 日（水曜日）13:30～17:30 AA 研 301 室

「イスラーム法のデータ化：アラビア語古文書学に関する CALD プロジェクトの紹介」

ラハセン・ダーイフ（歴史資料研究センター／フランス国立科学研究センター）

CNRS の歴史資料研究センター・アラブ部門では、クリスチャン・ミュラーの下で、欧州内での大研究プロジェクトを実施している。プロジェクト名は、CALD（Comparing Arabic Legal Documents (8th to 15th centuries)）[8世紀から15世紀までのアラビア語法律文書の比較]である。このプロジェクトには世界中の多くの協力者が参加しており、報告者を含む3名が専従の研究者である。当プロジェクトはイスラーム初期からオスマン朝の到来までの間にアラビア語で書かれたイスラーム法に関わる全文書の収集を目的としている。それらの文書は刊行されているか否かを問わず段階的に CALD に入力され、典拠と日付を付けられ、網羅的に設定されたタイプに従って一覧化され、また非常に入念な研究に供せられるためのメタデータ群によって補完されている。個々の文書は、幾つかの例外を除いて、そのイメージと関連付けられ、それらの画像はデジタル化されて、同様に CALD に組み込まれている。このことが、当該文書をその刊行版と照合することを可能にさせ、また文書の形状や書体の詳細な記述及び分析を容易にし、さらには、様々な署名（判事、証人、公証人など）の位置に応じてテキストを入力する際の適切な順を示す。

本報告においては、CALD が現在行っている研究内容を、代表的な画面表示の幾つかをプロジェクトで示すことによって紹介する。また、念入りに選んだ例を用いて、CALD が持つ実践的な検索処理能力のあらましを述べると共に、それによって、研究者が期待している、歴史学的、人類学的、言語学的な特性を持つそれらの資料の多様な広がりについても併せて述べる。